

TOPIC 10 町に50万円を寄付

5/17 白糠ロータリークラブ寄付贈呈式

昨年創立60周年を迎えた白糠ロータリークラブ（山田圭祐会長・会員11人）は、60年を記念して、まちづくりに役立ててほしいと町に50万円の寄付をしました。役場で行われた贈呈式には山田会長、美馬俊哉会員、進藤卓嗣会員が出席。山田会長から棚野町長に寄付金が手渡されました。山田会長は「60年経ち、人口の減少とともに会員も減りましたが、ロータリークラブは社会奉仕団体ですので、できる限りこれかも町のために活動していきたい」と話していました。



左から進藤会員、山田会長、棚野町長、美馬会員



火ばさみとごみ袋を手にごみを拾い集める参加者

TOPIC 11 ごみが減ることを願って

5/17 国道38号・釧白団地内一斉清掃

「ふるさとエコ&クリーンしらぬか」自然の番人宣言推進事業の一環で、国道38号沿線と釧白工業団地内の一斉清掃が行われました。今年、釧白団地内企業の社員や町内会の会員など総勢219人が参加。紙くずや空き缶など、合計で燃えるごみ125kgと燃えないごみ185kgを集めました。清掃に参加した田川ひとみさんは「このような活動を知ってもらい、ごみを捨てる人が減ることを願っています」と話していました。

TOPIC 12 軽運動と脳トレで楽しく認知予防

5/18 元気はつらつ教室

認知症について理解を深め、予防することを目的とした「元気はつらつ教室」が社会福祉センターで開催されました。プログラムは全6回、毎週木曜日実施。第1回目となるこの日は21人が参加。認知症の基礎知識について町保健師が講話し、続いて株式会社オカモトの石澤香苗さんが軽運動・脳トレの指導を行いました。参加した佐藤光子さんは「教室では参加者同士の交流もあり、楽しく運動もできるので参加して良かったです」と話していました。



石澤さん（右）の指導の下、軽運動を行う参加者



植物の試験栽培をする室蘭工業大学の研究生

TOPIC 7 厳選した28種の植物 学生が植え付け

5/12 アイヌ伝承有用植物試験栽培

室蘭工業大学がアイヌ伝承有用植物28種の試験栽培を株式会社大前産業の圃場で行いました。同大学が代表機関として昨年10月にスタートしたプロジェクト「アシルートイタ」の研究開発の一つ。今回の対象植物は同大学の上井幸司准教授が採集した約300種の中から厳選。今後は白糠産品として製品化を目指します。植栽は同大学の研究生5人が参加。大学院生の藤原綾香さんは「試験栽培で食に価値を見出し、地元農業に貢献したいです」と話していました。

TOPIC 8 将棋で交流楽しむ

5/12 第1回しらぬか竜王戦（将棋大会）

久遠塾が主催する「第1回しらぬか竜王戦（将棋大会）」が白糠高校で開かれました。同塾は、白糠高校生と町民との交流を通して久遠塾への理解を深めてもらうことを目的に将棋大会を企画。大会はトーナメント方式による「10分将棋」で3段の実力を持つ、中新井田稔さん（47歳）が優勝しました。参加した白糠高校の青木慎吾さん（2年）は「試合では緊張しましたが、試合後は町民の方と楽しく交流できて、貴重な経験になりました」と話していました。



対局で交流を楽しむ町民と生徒

TOPIC 9 30数年ぶり 白糠町で開催

5/13 国際ロータリーIM開催

国際ロータリー第7分区IM（インターシティー・ミーティング）が社会福祉センターで開催され、釧路ロータリークラブなどの会員約150人が参加しました。IMとは、近隣のロータリークラブの会員が一堂に会して情報交換や親睦を図るもので、白糠町での開催は30数年ぶり。IMでは、棚野孝夫町長が「まちは子や孫への贈り物」と題して講演。棚野町長は「先人の苦勞や努力に感謝し、20年、30年先を見据えたまちづくりをしていくことが大切」と話していました。



「身の丈に合ったまちづくりを進めている」と話す棚野町長